

《開幕》レアンドロ・エルリッヒ展:見ることのリアル

2017年11月18日(土)ー2018年4月1日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

レアンドロ・エルリッヒ過去最大の個展、いよいよ11/18(土)開幕!

森美術館は、2017年11月18日(土)から2018年4月1日(日)まで、「レアンドロ・エルリッヒ展:見ることのリアル」を開催します。レアンドロ・エルリッヒは、国際的に活躍するアルゼンチン出身の現代アーティストで、日本では金沢21世紀美術館に恒久設置された《スイミング・プール》の作家としても知られています。

大型のインスタレーションから映像まで、エルリッヒの作品は視覚的な錯覚を用いて、わたしたちの常識に揺さぶりをかけます。一見どこにでもある見慣れた風景ですが、よく見ると、水がないのに舟が浮かんでいたり、人々がさまざまなポーズで壁に張り付いていたり、その異様な光景に観客は驚きと違和感を覚えることでしょう。自分が見ていることは果たして現実なのか、という疑いを抱くとともに、いかに無意識のうちに習慣にとらわれて物事を見ているか、という事実気付くのです。

本展は、エルリッヒの四半世紀にわたる活動の全容を紹介する、世界でも過去最大規模の個展です。新作を含む44点の作品を紹介し、その8割が日本初公開となります。作品を通してわたしたちは、見るという行為の曖昧さを自覚し、惰性や習慣、既成概念や常識などを取り払い、曇りのない目で物事を「見る」ことで、新しい世界が立ち現われてくることを、身をもって体験することになるでしょう。



味さを自覚し、惰性や習慣、既成概念や常識などを取り払い、曇りのない目で物事を「見る」ことで、新しい世界が立ち現われてくることを、身をもって体験することになるでしょう。

レアンドロ・エルリッヒからのメッセージ

今回の個展は、私のキャリアにとって最大の挑戦であり、また、常にさまざまなインスピレーションを与えてくれる、洗練と刺激に満ちたこの東京で開催できることを大変光栄に思います。

私の作品を通して、みなさん一人一人が「日常においてわたしたちがいかに無意識のうちに惰性や習慣で行動しているか」、そして「いかに常識や既成概念にとらわれ凝り固まった見方をしているか」ということに気付き、現実を問い直すきっかけとなれば嬉しいです。

現実の一つだけではない。それこそが現実なのではないでしょうか。

《建物》2004年
リノリウムにデジタルプリント、照明、鉄、木材、鏡
800 x 600 x 1,200 cm
展示風景: 104-パリ、2011年
※参考図版

プレスリリース

お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展:見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当:津原、花上、永福、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

レアンドロ・エルリッヒ

1973年、アルゼンチン、ブエノスアイレス生まれ。現在はブエノスアイレスとウルグアイ、モンテビデオを拠点に活動。ホイットニー・ビエンナーレ2000(ニューヨーク、2000年)をはじめ、第49回ベネチア・ビエンナーレ(イタリア、2001年)、第26回サンパウロ・ビエンナーレ(ブラジル、2004年)、リバプール・ビエンナーレ2008(イギリス、2008年)といった多くの国際展に参加、また、ポンピドゥー・センターで開催された「パリ・デリー・ボンベイ展」(フランス、2011年)にも出展。主な個展に、ローマ現代美術館(イタリア、2006年)、MoMA PS1(ニューヨーク、2008年)、エスパシオ・フンダシオン・テレフォニカ(マドリード、2017年)、ニューバーガー美術館(ニューヨーク、2017年)など。国内では、大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ(新潟、2006年、2012年、2017年)、瀬戸内国際芸術祭2010(香川、2010年)などに参加し、2014年には金沢21世紀美術館にて日本初の個展を開催。



撮影: Alejandro Guyot



《スイミング・プール》

レアンドロ・エルリッヒは、日本では金沢21世紀美術館に恒久設置された《スイミング・プール》の作家としても知られています。

地上と地下を隔てる水面を通して、地上からは水中で動き回る人々が眺められ、地下からは水中から地上を仰ぎ見るような体験ができる面白さから、老若男女問わず親しまれています。

※本展では、《スイミング・プール》のプロトタイプ模型と写真を展示します。

《スイミング・プール》 2004年 コンクリート、ガラス、水 280 x 402 x 697 cm
 所蔵: 金沢21世紀美術館
 撮影: 木奥恵三
 画像提供: 金沢21世紀美術館
 ※参考図版

開催概要

展覧会名:レアンドロ・エルリッヒ展:見ることのリアル

主催:森美術館

後援:アルゼンチン共和国大使館

協賛:株式会社大林組、トヨタ自動車株式会社、株式会社コーエーテクモホールディングス、TRUNK(HOTEL)

制作協力:YKK AP株式会社 **協力:**シャンパーニュ ポメリー

企画:椿 玲子(森美術館キュレーター)

会期:2017年11月18日(土)ー2018年4月1日(日)

会場:森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

開館時間:10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 *いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料:一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳ー中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

*表示料金の消費税込 *本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く)

*スカイデッキへは別途料金がかかります

一般のお問い合わせ: Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

プレスリリース お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展:見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当:津原、花上、永福、村田
 Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
 〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

展覧会のみどころ

1. 多くが日本初公開！初期の作品から新作までを網羅的に紹介

本展は、初期の作品から新作までを網羅的に紹介することで、エルリッヒの四半世紀にわたる活動の全容に迫る世界でも過去最大規模の個展です。44点の出展作品のうち、8割が日本初公開作品で構成されるため、今まで見たことのない、エルリッヒ作品の新たな魅力に出会うことができます。

2. 「現代アートっていいね!」を実感、誰もが楽しめる展覧会

不思議と驚きに溢れ、好奇心を刺激するエルリッヒの作品は、観客自らが参加し体験することで初めて完成されます。さらに建物や教室、地下鉄、エレベーターなど日常の中のありふれたものが作品のモチーフとなっているため親しみやすく、現代アートに馴染みがなくても、大人から子どもまで誰もが気軽に楽しむことができます。

3. 写真撮影が可能！

“インスタ映え”する大規模で建築的なインスタレーション作品

エルリッヒの作品の中でも特に人気がある「建物」シリーズが、本展にも登場します。これは、観客が床に置かれた建物のファサード(壁面)に寝転がって思い思いのポーズをとると、鏡の効果で、まるで重力に逆立ったようなアクロバティックな体勢で、壁や窓枠にしがみついているかのような光景が生まれる、大規模な体験型インスタレーション作品です。作品の一部になった自分自身の不思議な姿を、写真に撮って楽しむこともできます。

4. 世界が違って見えてくる！新たな見方を与えてくれる作品群

見慣れた風景に僅かでも認識の“ずれ”が生じると、人は突如として違和感を覚えます。エルリッヒの作品は、私たちが当たり前のこととして疑いもせず受け止めている現実の中に、不思議で奇妙な空間を提示することで、私たちに「現実」とは何かを再考する機会を与えます。展覧会を通して、習慣や既成概念がいかに私たちの認識に影響を与えているかに気付くことで、鑑賞後の世界も今までとは違って見えることでしょう。

5. 作品の背後に込められた、社会的メッセージと批評性

老若男女、誰もが楽しめるエルリッヒの作品ですが、その背景には社会的メッセージが込められています。《シンボルの民主化》は、ブエノスアイレスの街の中心にそびえるオベリスクをテーマにしていますが、権力の象徴である建造物を一般市民に開放したプロジェクトとして話題になりました。また、本展のための新作《教室》は、廃墟化した教室に自分の姿が亡霊のように映り込む作品で、日本が抱える少子化や過疎化などの問題を示唆し、観客にその未来像を考えさせます。



《シンボルの民主化》
2015年
インクジェットプリント
各145 x 100 cm

プレスリリース

お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展：見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当：津原、花上、永福、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

主な展示作品

《反射する港》 日本初公開

手漕ぎ式のボートが、水に揺れながら漂う様子を見て、展示室の中に、船着き場が現れたのかと思うでしょう。しかし実際にそこに水はなく、水面に映っているように見える反射イメージも、上部のボートと同じ素材でできた立体物なのです。



《反射する港》 2014年
ガラス繊維、金属フレーム、駆動装置、木材、アクリル板 サイズ可変
展示風景：「ハンジン・ SHIPPING・ザ・ボックス・プロジェクト2014」韓国国立現代美術館、ソウル、2014年
Courtesy: National Museum of Modern and Contemporary Art, Korea; Art Front Gallery; Galleria Continua

《建物》 新バージョン

「重力に逆らって、軽々と壁にぶら下がってみたい。」そんな願いを叶えてくれる、参加型のインスタレーションです。床に横たわった建物のファサード(壁面)に寝転がると、その姿が鏡に映し出されます。



《建物》 2004年
リノリウムにデジタルプリント、照明、鉄、木材、鏡
800 x 600 x 1,200 cm
展示風景：104-パリ、2011年
※参考図版

《教室》 新作

本展のために制作される新作。少子化や地方の過疎化を背景に、廃校となった学校の教室が舞台の作品です。ガラスで仕切られた2つの部屋の一方に入ると、ガラスに自身の姿がうつすらと映り込み、まるで亡霊となった自分が、もう一方の廃墟と化した教室にいるかのように見えます。



《精神分析医の診察室》 2005年
ソファ、本棚、机、椅子、カーペット、ガラス、照明のある同じサイズの2部屋
サイズ可変
展示風景：プロア財団、ブエノスアイレス、2013年
撮影：Clara Cullen
※参考図版

《試着室》 日本初公開

まるで迷路のような体験型のインスタレーションです。試着室の中に入ると、前方と左右に姿見が。しかし自分の姿は映っておらず、代わりにどこまでも試着室が続いています。試着室を彷徨う中で、自分が鏡の外と内のどちらにいるのか、自己と他者の区別さえも曖昧になっていきます。



《試着室》 2008年
パネル、フレーム、鏡、スツール、カーテン、照明
サイズ可変
展示風景：イグアテミ・ショッピングモール、サンパウロ、2016年
撮影：Luciana Prezia
Courtesy: Iguatemi Shopping Mall, Luciana Brito Galeria

プレスリリース

お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展：見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当：津原、花上、永福、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

企画者のメッセージ

椿 玲子（本展キュレーター／森美術館キュレーター）

本展は、エルリッヒの四半世紀に及ぶ作家活動を紹介する、過去最大規模の個展(ミッドキャリア・レトロスペクティブ*)であり、東京における初個展、また森美術館にとって初めての南米作家の大型個展です。

エルリッヒの作品の多くは、先ず私たちに「驚き」という体験を与えます。その「驚き」は私たちの錯覚を利用しているのですが、その仕掛けは常に開示された状態になっています。それゆえに私たちは作品を鑑賞する中でその仕掛けを発見し、その驚きの中で、目の前にある「現実」が実は錯覚によって見えていた「イメージ」に過ぎないのだと気付かされ、普段何気なく認識している「現実」に対して疑問を抱くようになります。また日常的な風景や公共空間のモニュメントを流用し、社会の諸事情に言及する作品群は、私たちがとらわれている「慣習」や「常識」について再考するよう促します。

エルリッヒの作品は鑑賞者に身体的な動作を促し、作品に参加している人たちを、他の鑑賞者たちが作品の一部として鑑賞できる、すなわちパフォーマンス型な参加型作品だといえます。テクノロジーの進歩によって遠隔地域とのコミュニケーションが一般化し、バーチャルリアリティが日常に浸透しつつある現在、実際に身体を用いて、そこに偶然居合わせる他者と共に作品を体験することは、ますます大きな意味を持つのではないのでしょうか。

エルリッヒは「習慣や既成概念は恐ろしいほどの耐久性で、私たちがおそらく気付かないくらいに、私たちのリアル、現実認識をコントロールしている。そうした事実について、鑑賞者が作品を通じて考えるきっかけになれば良いと思っている。」と語ります。本展の副題「見ることのリアル」には、正にこうしたエルリッヒの希望と決意が込められているのです。

確かに、私たちの社会的な常識や習慣、倫理感ほど脆いものはないといえるでしょう。例えば第二次大戦中の日本社会における戦争礼賛と、現在の不戦と平和への希求という常識は正反対ですし、同時に、こうした常識はちょっとしたことで逆戻りしてしまう危険性があるのです。また、科学的な法則ですらパラダイムシフトによって常に刷新されて行くことを忘れてはならないでしょう。

今や地球上を覆い尽くしたグローバル資本主義は、新しい地平としてインターネット上の仮想の金融空間を必要とし、私たちはニュースやSNSといったメディアを通じ、世界像や一般的な倫理観を確認しています。こうした仮想空間における虚実入り混じる情報の集積に頼る時代だからこそ、私たちの思考に住み着き、それらをコントロールしようとする情報や既成概念から自由になって、世界について自分について、自分なりの考え方やイメージを獲得しようとするのが重要になっているのではないのでしょうか。本展が、各々の「現実(リアル)」について、再考するきっかけとなることを期待しています。

* ミッドキャリア・レトロスペクティブ: アーティストのキャリアの晩年や没後に開催されるイメージが強い「回顧展」に対して、一定のスタイルを確立した中堅アーティストの数十年間の仕事を網羅的に見せる展覧会。

プレスリリース お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展：見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 津原、花上、永福、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

展覧会関連プログラム

■ キッズ・ワークショップ「レアンドロさんと一緒に」 ※日英逐次通訳付

アーティストのレアンドロ・エルリッヒと一緒に、みんながよく知っている日常の身近なテーマについてお話しをしましょう。展覧会を体験する子どもたちが、それぞれのイメージを膨らませて自由にスケッチをします。

出演:レアンドロ・エルリッヒ

日時:2017年11月19日(日)10:00-12:00(受付開始9:30)

会場:森美術館展示室内

対象:4歳から6歳までのお子様 **定員:**15名(要申込・抽選)

料金:500円(材料費)*別途、当日有効の森美術館展覧会チケットが必要です。

主催:森美術館

お申し込み:受付は終了しました。

■ アーティストトーク「アントロポコスモスー現実という構築物」 ※日英同時通訳付

レアンドロ・エルリッヒは、「現実」を、神々や儀式、科学、哲学といった人間の技術や精神によって形作られた構築物(アントロポコスモス)と捉えています。人間が作り上げてきたこの「現実」という構築物に対して、エルリッヒは視覚的な仕掛けを用いた作品を通して疑問を投げかけます。今回のトークでは、一見すると誰もが親しみやすい作品の背景にあるこうした奥深いコンセプトを、作家本人が語ります。

出演:レアンドロ・エルリッヒ

日時:2017年11月20日(月)19:00-20:30(受付開始18:30)

会場:アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)

定員:150名(要予約)

料金:1,800円(「レアンドロ・エルリッヒ展」鑑賞チケット1枚付き)、MAMCメンバー無料

主催:森美術館

協力:アカデミーヒルズ

お申し込み:受付は終了しました。

■ キッズ・ワークショップ「レアンドロ・エルリッヒ展で“こども哲学”しよう」 ※日本語のみ

レアンドロ・エルリッヒの展覧会にはふしぎな世界が広がっています。次々にわきあがってくる「どうして?」には正しい答えはないのかもしれませんが。作品から感じる「どうして?」を私たちの身近なことにつなげてたくさん話し合ってみましょう。

ファシリテーター:井尻貴子、清水将吾、小川泰治(NPO法人こども哲学・おとな哲学アーダコーダ)

日時:2017年12月9日(土)10:00-12:00(受付開始9:30)

会場:森美術館展示室内

対象:小学校3年生から6年生 **定員:**25名(要申込・抽選)

料金:無料(ただし、当日有効の森美術館展覧会チケットが必要です)

お申し込み:森美術館ホームページ www.mori.art.museum

※申込期間2017年10月31日(火)-11月24日(金)、抽選結果は2017年11月29日(水)-12月1日(金)にメールにてご連絡します。

プレスリリース お問い合わせ「レアンドロ・エルリッヒ展:見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当:津原、花上、永福、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

■ ラーニング・キャンプ004「現代アートと哲学対話—新しい学びの可能性」 ※日本語のみ

「哲学対話」なんて難しそう、とためらう人は多いでしょう。でも、哲学の本質はいろいろな事に興味を持って考えること。それは、好奇心旺盛な子どもが日々考えていることや、アートと関わりを持つことにも似ているかもしれません。「答えのない問い」について対話を深める「哲学対話」は周囲とのコミュニケーションや主体的な考えを育む観点から今、注目されています。哲学することは誰にでもできる!と太鼓判を押す河野哲也氏を招き、アートを通じた新たな学びへのヒントを探します。

※プログラム後半、参加者はグループに分かれ、「哲学対話」ミニ体験をします。

出演: 河野哲也(立教大学文学部教授、NPO法人子ども哲学・おとな哲学アーダコーダ副代表理事)

聞き手: 白濱恵里子(森美術館アソシエイト・ラーニング・キュレーター)

日時: 2017年12月9日(土) 14:00-16:00(受付開始 13:30)

会場: 森美術館展示室内 **定員:** 60名(要予約)

料金: 無料(ただし、当日有効の森美術館展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 森美術館ホームページ www.mori.art.museum



河野哲也

■ トークセッション ※日英同時通訳付

「プロトタイプとしてのアートについて考える—レアンドロ・エルリッヒ作品を通して」

担当キュレーターが本展の企画意図や作品を紹介すると共に、フランスの哲学者エリー・デュリング氏を招き、芸術学の領域で注目される独自の「プロトタイプ論」の視点から、レアンドロ・エルリッヒの作品を分析し、より深く読み解きます。

出演: エリー・デュリング(パリ第10ナンテール大学准教授)、椿 玲子(森美術館キュレーター)

日時: 2018年1月20日(土) 14:00-15:30(受付開始 13:30)

会場: 森美術館オーデトリウム

定員: 80名(要予約) **料金:** 無料(ただし、当日有効の森美術館展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 森美術館ホームページ www.mori.art.museum



エリー・デュリング
Photo: Sang-Hyun Hong

■ 森美術館×日本フィルハーモニー交響楽団 音楽ワークショップ EYES & EARS Vol.2「聴くことのリアル」 ※日英逐次通訳付

夜の美術館で、レアンドロ・エルリッヒの作品とそのテーマについて多様な視点から考え、ディスカッションします。さまざまなインスピレーションを受けながら、参加者は新たな感覚やテーマを見だし、自分たちで即興音楽を創作、音で表現します。2016年よりシリーズ化した、「アートと音楽」の異領域を旅する体感型ワークショップです。

講師: マイケル・スペンサー(日本フィルハーモニー交響楽団コミュニケーション・ディレクター)、同交響楽団ファシリテーター

日時: 2018年2月6日(火) 19:00-21:30(受付開始 18:30)

会場: 森美術館展示室内

対象: 高校生以上 **定員:** 40名(要申込、抽選) **料金:** 2,000円、MAMCメンバー/日本フィル東京定期会員無料

主催: 森美術館、公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

お申し込み: 森美術館ホームページ www.mori.art.museum

※申込期間2017年11月16日(木)ー2018年1月25日(木)

※抽選結果は1月26日(金)ー1月30日(火)にメールでご連絡します。

※美術館は17:00で終了し、18:30よりお申し込みいただいた方のみにも再オープンします。

※本プログラムは、日本フィルハーモニー交響楽団第698回東京定期演奏会<春季>との連携企画です。



マイケル・スペンサー

プレスリリース お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展：見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 津原、花上、永福、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

■ ポエトリー・リーディング・パフォーマンス「レアンドロをよむ」 ※日本語のみ

詩人・建島哲が本展の作品世界を題材にした新作を発表します。また、ベルリンを拠点に声や自作楽器によるソロ演奏をはじめ、多領域のアーティストとの共作や音響詩の上演など幅広く活動する足立智美が、建島哲の詩と本展をもとにパフォーマンスを行います。

出演: 建島 哲(詩人、美術評論家)、足立智美(パフォーマー、作曲家、音響詩人)

日時: 2018年2月27日(火) 19:00-20:00 (受付開始 18:30)

会場: 森美術館展示室内 **定員:** 40名(要予約)

料金: 無料(ただし、当日有効の森美術館展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 森美術館ホームページ www.mori.art.museum

※美術館は17:00で終了し、18:30よりお申し込みいただいた方のみ再オープンします。当日、ご参加の方は22:00まで展覧会をご覧ください。



建島 哲



足立智美

■ キュレーターによるギャラリートーク ※日本語のみ

本展担当キュレーターが、展示室内でツアー形式のトークを行います。

出演: 椿 玲子(森美術館キュレーター)

日時: 2017年11月29日(水) 19:00-20:00

2018年 3月14日(水) 19:00-20:00

会場: 森美術館展示室内 **定員:** 30名 **料金:** 無料(ただし、当日有効の森美術館展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 不要(当日先着順、展覧会場入口にお集まりください)

■ ギャラリートーク ※日本語のみ

森美術館スタッフが、展示室内でツアー形式のトークを行います。

日時: 2017年12月20日(水) 14:00-15:00

2018年 1月24日(水) 19:00-20:00

2018年 2月14日(水) 14:00-15:00

会場: 森美術館展示室内 **定員:** 各回15名 **料金:** 無料(ただし、当日有効の森美術館展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 不要(当日先着順、展覧会場入口にお集まりください)

■ おやこでアート ファミリーアワー ※日本語のみ

0歳から6歳のお子さまと一緒に、森美術館へ出かけませんか?開館前の美術館を貸し切り、小さなお子さまと安心して鑑賞いただけます。現在妊娠中のプレママもぜひご参加ください。ご家族との週末の楽しみに、子どもたちとの交流に、子育ての情報交換に、「レアンドロ・エルリッヒ展」を自由にお楽しみください。

日時: 第1回 2017年12月 2日(土) 9:30-10:30

第2回 2018年 1月20日(土) 9:30-10:30

会場: 森美術館展示室内

対象: 未就学児(0~6歳)とご家族、現在妊娠中の方とご家族 **定員:** 各回80組(要予約)

料金: 無料(ただし、当日有効の森美術館の展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 森美術館ホームページ www.mori.art.museum

※ベビーカーや抱っこひもで赤ちゃんと一緒に自由に鑑賞ください。

※9:35/9:55より、美術館スタッフが展示室内でいくつかの作品をご紹介します。参加をご希望の方は展示室入口にお集まりください。

※10:00より一般のお客様も入館します。ご了承ください。

プレスリリース お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展:見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当:津原、花上、永福、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

■ 耳でみるアート ※日本語のみ

視覚に障がいがある方を対象とした、スタッフとの対話を通して作品を楽しむツアーです。
本プログラムは見える、見えないにかかわらず、どなたでもご参加いただけます。

日時: 2018年1月6日(土) 10:00-12:00 **会場:** 森美術館展示室内

対象: 一般 **定員:** 10名(要予約) **料金:** 無料(ただし、当日有効の森美術館展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum / TEL (03-6406-6101)

■ 手話ツアー ※日本語のみ

手話と言葉で展覧会を楽しむツアーです。手話をお使いにならない方も気軽にご参加ください。

日時: 2018年1月6日(土) 15:00-16:00 **会場:** 森美術館展示室内

対象: 一般 **定員:** 10名(要予約) **料金:** 無料(ただし、当日有効森美術館の展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum / FAX (03-6406-9351)

■ 学校と美術館のためのプログラム ※日本語のみ

展覧会の紹介とともに、アートと子どもたちの学びについて先生と美術館スタッフがディスカッションします。図工や美術の先生のみならず、他教科の先生もぜひご参加ください。

日時: 2017年11月29日(水) 19:00-21:30

(19:00-20:00 キュレーターによるギャラリートーク/20:00-21:30 ディスカッション)

会場: 森美術館 **定員:** 10名(要予約) **料金:** 無料

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

■ とびだす学校ツアー ※日本語のみ

作品鑑賞を子どもたちや学生たちの学びに取り入れてみませんか?

授業などの一環として展覧会をご覧いただくツアーです。希望日の4週間前までに以下へお問い合わせください。事前に先生とご相談のうえ、日程や内容を決定します。

対象: 保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校 **人数:** 1回50名まで(ギャラリートークの場合)

※それ以上の人数はガイダンスやレクチャー形式などでご相談に応じます。

料金: 保育園、幼稚園、小学校、中学校: プログラム費無料、入館料無料

高等学校: プログラム費無料、入館料1人500円 大学、専門学校: プログラム費無料、入館料1人1,000円

※引率者はいずれも無料

注意事項: *会場混雑やスケジュール等の事情により、ご希望に沿えない場合もあります。ご了承ください。

*館内には昼食をとる場所はありません。

お問い合わせ: 電話、FAXまたはメールにて、森美術館ラーニング担当宛に下記項目をお知らせください。

●学校名、学年、人数、ご連絡先 ●ご希望の来館日時(複数の候補日をお知らせください。)

* 出演者は予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

プログラムに関するお問い合わせ: 森美術館 ラーニング担当

Tel: 03-6406-6101(月~金: 11:00-17:00) Fax: 03-6406-9351 E-mail: mam-learning@mori.co.jp

最新のプレス画像は、下記サイトより申請、ダウンロードいただけます。

<https://goo.gl/xFfqH6>

プレスリリース

お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展: 見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 津原、花上、永福、村田

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

関連情報

■ お得な割引情報

「プール割り!」

日本では、金沢21世紀美術館に恒久設置された《スイミング・プール》の作家として知られている、レアンドロ・エルリッヒ。本展の開催を記念して、開幕から1ヵ月間限定で「プール割り!」を実施します。過去に金沢21世紀美術館でエルリッヒの《スイミング・プール》を撮影されたことがある方は、その画像を森美術館のチケットカウンターで提示すると、お得に入館できます。金沢で《スイミング・プール》を体験された方は、ぜひこの機会に森美術館でも「インスタ映え」のするエルリッヒの作品の数々を、体験・撮影しにお越しください!

対象期間: 2017年11月18日(土)~12月17日(日)

割引対象: 金沢21世紀美術館で撮影した《スイミング・プール》の画像をお持ちの方

※森美術館のチケットカウンターにて、お持ちの画像をご提示ください。提示した本人とお連れ様1名まで優待価格でご入館できます。

割引内容: 一律100円引き ※他の割引との併用はできかねます。

一般1,800円⇒1,700円、学生(高校・大学生)1,200円⇒1,100円、子供(4歳~中学生)600円⇒500円、シニア(65歳以上)1,500円⇒1,400円

「水曜日はチーム割り!」

老若男女誰でも楽しめる観客体験型の「レアンドロ・エルリッヒ展」は、ご家族や友人、職場の同僚など、複数人でチームとなって鑑賞することで、さらに面白い体験ができる展覧会です。普段はひとりで美術館に行く方も、「現代アートは難しい」と感じている人も、ぜひ本展には皆さまお誘いあわせの上、チームでのご来館をオススメします。毎週水曜日に限り、3名以上での来館で一律100円引き。忘年会、新年会など何かと集う機会が増えるこれらの季節、ぜひご活用ください!

対象日: 毎週水曜日 **割引対象:** 3名以上でお越しの方

割引内容: 一律100円引き ※他の割引との併用はできかねます。

一般1,800円⇒1,700円、学生(高校・大学生)1,200円⇒1,100円、子供(4歳~中学生)600円⇒500円、シニア(65歳以上)1,500円⇒1,400円

■ 「レアンドロ・エルリッヒ展」限定デザインの年間パスポートが登場!

「森美術館+東京シティビュー パスポート」は、森美術館/展望台 東京シティビュー/屋上 スカイデッキの3施設に、1年間いつでも何度でもご入館いただけるお得な年間パスポートです。今回、「レアンドロ・エルリッヒ展」の開催を記念して、限定デザインのパスポートが登場しました。数量限定なので、ぜひお早めにお買い求めください!

料金: 6,000円(税込) **有効期間:** 発行から1年間

特典内容: 1. 森美術館、東京シティビュー、スカイデッキが1年間何度でも入館無料

2. 混雑時の優先入館

3. ご同伴者5名様まで優待料金 [一般1,800円⇒1,500円(税込)]

*スカイデッキの追加料金なし

4. ミュージアムショップ、52階のカフェ&レストラン「THE SUN & THE MOON」でのお会計が10%割引(*書籍等一部除外あり)

詳細: 森美術館ホームページ www.mori.art.museum



プレスリリース

お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展: 見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 津原、花上、永福、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

■ 展覧会カタログ

執筆者：

【論考】

ヤコポ・クリヴェリ・ヴィスコンティ(インディペンデント・キュレーター、評論家)、

長谷川裕子(東京藝術大学大学院教授、東京都現代美術館参事)、

マイケル・ウェレン(テート・モダン インターナショナルアート・キュレーター)、

原 広司(東京大学名誉教授/原広司+アトリエ・ファイ建築研究所)、

椿 玲子(森美術館キュレーター)

【ショート・エッセイ】

ソフィ・カル(アーティスト)、

エイドリアン・ダナット(ライター、キュレーター)

サイズ: A4 変型(28.2 x 21cm) **頁数:** 214頁 **言語:** 日英バイリンガル

価格: 未定 **制作・発行:** 森美術館/株式会社美術出版社 **発売日:** 2017年12月下旬

プレスリリース

お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展:見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当:津原、花上、永福、村田

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル